

# 学習スタイルによるビリーフ研究\*

- ブログを利用する韓国人日本語学習者を中心に -

徐ユリ\*\*

〈 Abstract 〉

## Belief studies by learning style:

### Focusing on Korean Japanese learners using blogs

For learners who use Naver blog, the largest portal site in Korea, we looked at their "learning beliefs" and how these can help them learn. Based on the assumption that learning beliefs of the learners using blogs may differ depending on their learning styles, the present study clarifies learning styles and learning beliefs of these learners. In addition, it proposes learning contents in consideration of what learning approaches can lead to continued learning by learners.

Based on 'Gregorc's learning style', the present study found that 28% of students were the CS (concrete-sequential) type, 29% were the AS (abstract-sequential) type, 35% were the AR (abstract-random) type, and 8% were the CR (concrete-random) type. One-way Analysis of Variance (ANOVA) was used for a statistical analysis to ensure that the mean values among the learning concepts, which are the main variables according to the learning style, were significantly different. CS-type learners possess a strong learning belief related to 'special features', AS-type learners related to 'strategies', and AR-type learners related to 'contents'. The CR-type learners are shown to have a strong learning belief related to 'self-regulation'.

It is possible to offer the following learning approaches, taking into account the learning belief of learners with different learning styles. For the CS type, it will be effective to suggest to use portable cleanup notes or contents that can be utilized in real situations, and to introduce exchanges with Japanese. It will be effective to provide tasks for AS types so that they can analyze listening and reading materials by themselves. For the AR type, group activities that involve lots of interactions with other people, or short lectures that involve questions and answers will be effective. Finally, the CR type will be interested in approaches such as roll play and games.

This study confirmed the need for a new approach that accommodates learners' learning beliefs. It is hoped that the learning approach based on learners' different learning beliefs in connection with their learning styles will take a step forward in designing a course that optimizes the learner's inner characteristics.

Field : Japanese Education

Keywords : Learning Belief, Learning styles, Learning approaches, Korean Japanese Learners,  
Blog learners.

\* 本稿は筆者の修士論文の一部と「第四回東アジア日本研究者協議会国際学術大会」での発表文をを修正・加筆したものである。

\*\* 高麗大学 中日語文学科 博士課程, 日本語学教育専攻

## 1. はじめに

情報通信が教育サービスも含め社会全般に革新的な影響を及ぼす時代になり、日本語教育の現場にも「教室の中」での授業に拘らず、「教室の外」でも学習ができる動機付けや教え側の役割の変化についての注目が高まっている。例えば、新聞や記事によく触れる学習者、アニメや映画などの動画をよく接する学習者など、学習者の個性に合わせた人工知能のデータ分析から、多様な教育コンテンツが提供される時代になるのではないだろうか。

第二言語習得研究の分野でも、学習者の個人差を理解しようとする学習者に影響を与える「個別的な要因」の一つである「ビリーフ」に関しては、一つの研究分野として位置づけられてから約30年ほど経過したが、いずれも教室で教わる学習者を中心にしたものが多い。実際、筆者は授業時間以外に、学習者にアニメや映画、NHKニュースを活用した学習資料などを共有する目的でブログの運営を開始した。しかし、同じレベルの授業を受ける学習者の中でも、ブログのようなコンテンツを利用する学習者もいれば、そうではない学習者もいた。

そこで、本研究では、授業以外に、韓国で最大手のインターネット検索ポータルサイトである「ネイバー(Naver)」のブログを利用している学習者はどのような「学習スタイル」を持つのか、どのような「ビリーフ」を持っているのか、具体的に明らかにしていく。そして、学習者が持っている具体的な「ビリーフ」と「学習スタイル」を捉えることで、既存の授業で活用していた学習ストラテジーとともに、それを考慮したコンテンツを活用した学習方法を提案したい。

## 2. 先行研究及び研究課題

学習者の個別性に影響を与える要因である「ビリーフ」と「学習スタイル」に関するこれまでの先行研究を概観する。日本語教育におけるビリーフに関する先行研究と、学習スタイルに関する先行研究をいくつかまとめた上で、本研究の位置づけを述べることにする。

まず、「ビリーフ」に関する研究はHorwitzをはじめ、1980年代後半から活発に行われ、日本語教育におけるビリーフ研究は、1990年代にその概念が定着したと見ることができる(稲葉, 2014; 李琬兒, 2018)。日本語教育における従来の研究は、大きく「学習ストラテジー」との関連性に焦点を合わせた研究(渡辺, 1990; 橋本, 1993; 斎藤, 2009)と「学習者と教師間のビリーフ」との比較研究(斎藤, 1996; 吳禧受, 2007; 若井・岩沢, 2004)が多く見られた。

渡辺(1990)は、英語を母語として大学を卒業した3人の学習者を対象に学習者の個々の学習ビリーフと学習ストラテジーはどのような関連があるのかを研究したが、学習ビリーフと学習ストラテジーとの明確な相互関係を把握することは困難であったと考察した。橋本(1993)も、多様な国籍の初級学習者を対象に学習ストラテジーの分類及び体系化と言語学習に関する学習ビリーフとの関連性を調査した結果、学習者一人ひとりのビリーフを知ることが重要であると報告している。調査から分かったいくつかのビリーフを紹介すると、自ら言語学習に対する素質が高いとは思わないが、努力すればうまくできると思う点(適性)、日本語は難しいと思っている点(難易度)、翻訳よりは語彙や文法に対する学習がもっと重要である点(特質)、日本語発音と反復練習を重視する点(会話戦略)、日本語を上手くした

いし日本人の友達がほしい点(動機)などが挙げられている。斎藤(2009)は、日本人韓国語学習者の大学生を対象に韓国語学習に対する好意(好意度)が学習信念と学習戦略にどのような影響を及ぼすのかを研究した。その結果、学習に対する好意度が高い(韓国語)学習者は、そうでない学習者に比べると学習動機が高く、文化や該当言語を使う友人との交流を望む事実が分かったと述べている。

斎藤(1996)は、学校内での日本語学習者と教師との自律的学習に関するピリーフの違いを統計的に分析した。自律的学習を理想としながらも、現実的には難しいと考えているという点では学習者も教師も共通しているが、教師への依存という点では学習者の方が教師よりもかなり非自律的であることがわかった。アンケートとインタビューを通して学習者と教師のピリーフの違いを研究した吳禱受(2007)は、韓国語日本語学習者のピリーフの特徴として、日本語でコミュニケーションすることへの意欲と興味が高いこと、日本語学習に関する肯定的で積極的な態度をあげた。しかし、間違いや誤用に関する不安や、自らの実力で授業中に発言することは難しいなどのピリーフを持っていることから、実際の授業で消極的な態度を示すものであると述べている。ハンガリー人日本語学習者のピリーフを調査した若井・岩沢(2004)は、学習者が持っているピリーフ(語彙学習の重要性、文章の正確性)を理解せず、教師が持っているピリーフ(例:少し間違っても大丈夫だから、日本語で話してみよう)だけでの授業設計は注意が必要であると述べている。

学習者を中心としたピリーフ研究が多様な側面から行われてきている中、서유리(2019a)は、これまでのほとんどのピリーフ研究は年齢、性別、専攻、グループ別の比較が多かったが、対象者は大半が教室での学習者の場合が多かったと指摘し、ブログを利用する学習者のピリーフについての調査を行った。その結果、彼らの動機に関するピリーフ(例:日本語がうまくなりたい、日本人の友達と付き合いたい)は依然として高く、「確実な目標(目的)を持って勉強する方が効率的」であり、「自ら日本語が上達できる」というピリーフが強いことが分かったが、「学習方法に関しては消極的に態度が変わる」ということが分かった。「日本語の上達は学習者自身の努力次第による」と強く考えているのに対して、「どのような学習方法が自分に役に立つか」については自覚していないと述べている。

次に、学習スタイルにおける研究では、Gregorcの学習スタイルが主に利用されている。Gregorc(1979:234)は、「学習スタイルは人が自ら環境に学び適応する方法を示す指標の役割をする独特な行動で構成されており、人の心構えもこれを表す手がかりとなる」と述べている。Gregorcの学習スタイルを支持した研究として、권성연(2009)、이재무(2013)、최미나·노혜란(2016)、신은정(2017)などが挙げられる。

권성연(2009)、이재무(2013)は「Gregorcの学習スタイルが個人の認知と情報処理方式に重点を置いた代表的な検査形態の一つで、人々の精神機能とどのように関係を結んでいるかの手がかりは、観察可能で明確な行動で構成されている」と主張している。권성연(2009)、이재무(2013)、최미나·노혜란(2016)によると、Gregorcの学習スタイルを「配列(ordering)」と「知覚(perception)」により、4つのタイプのスタイルに区分した。学習者が情報を獲得して把握する'遅刻'を基準に「抽象的な(abstract)スタイル」と「具体的な(concrete)スタイル」を、情報を配置して参照する'配列'を基準へ「順次的な(sequential)スタイル」と「任意的な(random)スタイル」を4つに組み合わせて〈表1〉のように提示した。

〈表1〉 学習スタイルの類型

1)	具体・順次型 (Concrete Sequential, 以下 CS型)
2)	抽象・順次型 (Abstract Sequential, 以下 AS型)
3)	抽象・任意型 (Abstract Random, 以下 AR型)
4)	具体・任意型 (Concrete Random, 以下 CR型)

Gregorc(1982a:19, 1984:28)、권성연(2009:38)、이재무(2015:8)などを参考にして、서유리(2019b:18)は上記の4つの類型の学習スタイルについて次のように整理した。

- 1) CS型の学習者は自分を秩序整然かつ客観的に特徴づける。内容構成が順次的なものを、可視的で具体的な資料による直接的な経験による学習を好む傾向がある。ワークブックや印刷物、チェックリスト、チャートなどの段階的な進行とはっきりとした指示が似合う。
- 2) AS型の学習者は文書などの視覚資料を探索することを好む傾向がある。これらの資料から核的なアイデアを引き出すことが得意であり、講義や教材、報告書作成、研究などの活動にふさわしい。
- 3) AR型の学習者は順番に拘らない多様な環境を好み、人の行動に興味を持つ。集中能力に優れ、協力が必要な共同作業を好み、試行錯誤を修正して学習することを好む。討論や会話が好きで、テレビや映画、音楽を聞きながら行う学習、質問と回答からなる短い講義が似合う。
- 4) CR型の学習者は非構造的な問題を探索したり、大きな絵を見ようと、視覚資料を活用するが、順序化されていない任意的な学習を好む。シミュレーション、独立的な研究、問題解決、探求、選択的読み込み課題などの活動がふさわしい。

大学生を対象にした学習スタイルによる学習ストラテジーの使用と教授方法を好む間の関連性を分析した권성연(2009)では、CS型が最も多く、AR型、CR型、AS型がそれに続いた。최미나·노혜란(2016)では、サイバー講義を受講する学生を対象に学習スタイル別学業成就度や満足度、モバイルラーニング受講動機に差があるかどうかを調べた結果、CS型が最も多く、AS型、AR型、CR形の順であった。このような先行研究から、CS型が最も支配的学習スタイルを示し、CR型が相対的に支配的でない学習スタイルである点があった。学習スタイルを活用した日本語教育研究は日本語学習者の学習スタイルとリズム習得の関連性に関する研究(木下, 2011)と学習スタイルがレベルによる差があるかどうかに関心を合わせた研究(김세린·秋葉多佳子, 2014)のみで、その数が多くはないことを確認した。

以上のように、学習者個性の要因である「ビリーフ」と「学習スタイル」を関連づけた研究は、管見の限りでは見つからなかった。서유리(2019a)で指摘したように、ビリーフだけでは学習者個人の特性に合わせた学習アプローチを提案することに限界があるだろう。また、大学生を対象にした研究が多く、教室以外で学習する学習者を対象にした研究はほとんど見られなかった。ユーチューブ(YouTube)、フェイスブック(Facebook)、インスタグラム(Instagram)、ブログ(Blog)など学習の場が広がるにつれて、教室でない所での学習者を対象にする研究にも力を入れる必要があると考えられる。

そこで、本研究は、教室でない学習者、特にネイバーのブログを利用する日本語学習者を対象に、まず、彼らの「ビリーフ」と「学習スタイル」を分析する。その後、「ビリーフ」と「学習スタイル」を

組み合わせることで学習者の個人差を考慮した上で、多様な学習アプローチを提案することを目的とする。

### 3. 研究方法

#### 3.1 調査対象及び方法

本研究は、韓国の最大の検索サイトであるネイバーブログ(Naver blog)をそれぞれ3つを選別し、これを利用している学習者を対象とする。分析資料は、「今月のブログ<sup>1)</sup>」の語学分野であるネイバーブログ3つとした。いずれものブログも、日本文化、日本語の文法や試験などの掲示物をアップロードしている。特に、ブログAはレベルごとの漢字を書かせるなど書く機能に、ブログBは日本で話題になっている新聞記事など読む機能に、ブログCは短く一言ですぐ話せる話す機能に焦点を当てたものである。

ブログA、B、Cの運営者にオンラインURLリンク<sup>2)</sup>を共有し、2018年11月13日から23日まで各々のブログを利用している学習者550名にアンケートを回収した。このうち、現在日本語を勉強していないと答えた28名とブログを利用して日本語を勉強していないと答えた49名(重複含む)を除いた最終483名のアンケート結果を分析する。

#### 3.2 研究道具

アンケートは大きく三つの部分に分けられ調査を行った。(一)学習者の年齢や性別などの情報を調べるための部分と、(二)日本語学習に関するピリーフを調べるための部分、(三)学習スタイルを把握するための部分で構成されている。(二)は서유리(2019a)の「7つのピリーフ」(52問)調査項目に、(三)はGregorc(1984)の「4つの学習スタイル」(40問)に従い、アンケートを依頼した。

「ピリーフ」の設問は、(i)日本語学習の適性(以下 適性)、(ii)日本語学習の難易度(以下難易度)、(iii)日本語学習の特質(以下 特質)、(iv)学習及びコミュニケーションストラテジー(以下 戦略)、(v)動機、(vi)学習者の自律性(以下自律性)、(vii)コンテンツと7つの領域に分けられている。質問の回答は5段階のリカート尺度を使い、「まったく当てはまらない」は1点、「当てはまらない」は2点、「どちらでもない」は3点、「当てはまる」は4点、「とても当てはまる」が5点とする。

また、「学習スタイル」の設問は①CS型、②AS型、③AR型、④CR型と分けられ、学習スタイルごとにそれぞれの特性を表す10個ずつ、合計40個の単語で構成されている<sup>3)</sup>。回答者は自己を最もよく表

1) 今月のブログは、毎月異なるテーマによってネイバーが推薦するブログのことであり、過去の「パワーブログ」から変形させたサービスである。ブログ利用者から好評を得ているブログとブログサービスチームがブログ利用者と一緒に共有したいブログをテーマ別に薦めている。https://help.naver.com(2019.02.24. 検索、筆者修正)

2) http://ksurv.kr/?a=20344(2018.11.23. 検索)、調査期間が終了したため、当該リンクは現在接続不可である。アンケートツールとして、韓国社会科学データセンターのKSDC-DB(https://www.ksdcdb.kr)の「ONLINE-SURVEY」を利用した(研究用調査番号20344、調査者yurilingo)。

3) ①客観的、完璧主義者、堅実、実用的、慎重、がっちり、実地的、秩序整然、粘り強い、結果志向  
②評価志向、調査中心、室の高い、合理的、概念的、論理的、資料志向、立証的、分析的、判断志向  
③感覚的、多様な、判断回避、賑やかな、見抜く、自発的、共感力、調和力、審美的、人間中心的  
④直感的、冒険主義者、洞察力、知覚力、創意的、問題解決的、革新的、多核的な解決、実験的、実践的

していると考えている程度に、「最も関連がある」は4点、「関連がある」は3点、「関連がない」は2点、「最も関連がない」は1点のように4段階を選択できるようにした。최미나·노혜란(2016)はeラーニング及びモバイルラーニングと学習スタイルに関するアンケートで、それぞれ違う段階の回答で研究を行っている。本稿でも「学習スタイル」の設問は点数で判断するため、「ピリーフ」の設問とは異なる尺度を使っても問題ないと判断し、それに従うことにする。

回答者が選択した項目を合算すれば、スタイル別に10点から最高40点まで算出できるが、合計点数が10点から15点の間は「低いスタイル」、16点から26点の間は「中間スタイル」、27点以上の点数は「主な学習スタイル」と判断する(권성연, 2009; Weston, S.A., 2001; Gregorc, 1982a)。

### 3.3 分析方法

収集されたアンケート資料に対する結果分析は、서유리(2019a)の「ピリーフ」52問の平均値に基づいて、新たに「学習スタイル」を考慮するため、Excelと統計プログラムSPSS25を用いた。

まず、「学習スタイル」のアンケート質問がどれだけ安定的で一貫性があるかを調べるために、即ち、信頼性のある質問項目であるかを検討するため、各質問項目と質問項目の総点間の相関を求める信頼度係数(クローンバーアルファ)による信頼度分析を実施した。「ピリーフ」52問の信頼度係数は0.752で一般に主に収容可能な水準である0.6以上の数値を示し、「学習スタイル」40問の信頼度係数はCS型が0.722、AS型が0.834、AR型が0.777、CR型が0.869であった。本研究でのアンケート項目に関する信頼度は、既存の先行研究における信頼度よりはるかに高い数値を示すことにより、当該問題の信頼度を確保した。

次に、ネイバープログを利用する学習者をGregorcの4つの「学習スタイル」に分けるため、ExcelのIFとCOUNTIFを利用した。27点以上を「主な学習スタイル」とし、27点以下である場合は4つの点数の中、最も高い点数を「主な学習スタイル」とした。

最終に、それぞれの「学習スタイル」ごとにどのような「ピリーフ」の様相を呈するのか、それぞれの平均値を通じて分析した。

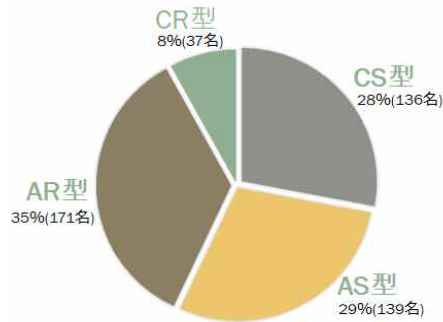
## 4. 結果及び考察

### 4.1 ブログを利用している学習者のGregorc学習スタイル分布

本節では、前節でも述べたように、27以上の点数であり、最も高い点数に当該する学習者を「主な学習スタイル」と区分した。また、24名の回答者は27点未満の点数であった。具体的な内訳としては、22点が1名、24点が2名、25点が5名、26点が16名で、相対的に高いスタイルを当該学習者の「主な学習スタイル」とみなし、分析に盛り込んだ。

〈図1〉のように、ブログを利用している学習者のうち、最も多く現れた学習スタイルは「AR型(抽象・任意型)」(35%, 171名)で、「CR型(具体・任意型)」が(8%, 37名)最も少なかった。ブログなどのコンテンツを活用する学習者だが、その中でも逐次的な資料や学習環境を選好したり、手順化されていない資料または環境を好むなどの差があるだろう。学習スタイルの分布を見ると、討論や会話を好むなど、

様々な環境を楽しみながら試行錯誤を修正し、学習することを好むAR型学習スタイルの学習者が最も多く、独立的な研究や、選択的な読書などの資料を好むCR型学習スタイルの学習者が最も少なかった。また、「CS型(具体・順次型)」と「AS型(抽象・順次型)」は同じく順次的な学習の流れを好んでいるが、具体的な学習資料を好むか(CS型)、抽象的な学習資料(AS型)を好むかの違いで分けられる。しかし、ブログを利用する学習者の中でCS型とAS型の分布が非常に似ているのは、学習者は自分で活用する学習資料より学習の流れが順次的である方を好むからであると思われる。



〈図1〉学習スタイル分布

#### 4.2 学習スタイル別ビリーフ構成

ビリーフの項目別平均値の比較を通じて、それぞれのスタイル別特徴を分析した。7つのビリーフ領域別計52個の質問項目をCS型、AS型、AR型、CR型学習スタイル別で比較して、ビリーフ項目別の平均価格が最も高い項目の数を合わせて当該学習スタイルごとに見えるビリーフの特徴を絵で簡略に提示する。その前に、学習スタイルによるそれぞれのビリーフ項目別の平均値(M)と標準偏差(SD)を見てみたい<sup>4)</sup>。

〈表2〉学習スタイル別適性ビリーフの違い

		適性1	適性2	適性3	適性4	適性5*	適性6	適性7	適性8	適性9
CS型	M	3.59	3.41	3.83	3.79	1.81	3.32	2.39	<b>3.56</b>	3.73
	SD	1.138	1.145	.822	1.014	.715	.900	1.187	1.031	1.064
AS型	M	3.68	3.49	<b>4.04</b>	3.93	1.74	3.24	2.42	3.55	<b>3.94</b>
	SD	1.090	1.242	0.833	1.088	0.745	0.921	1.154	1.023	0.926
AR型	M	<b>3.83</b>	<b>3.60</b>	3.91	3.98	<b>1.86</b>	3.31	2.45	3.50	3.93
	SD	1.000	1.166	0.792	0.942	0.722	0.890	1.118	1.081	0.943
CR型	M	3.70	3.43	3.86	<b>4.24</b>	1.70	<b>3.43</b>	<b>2.70</b>	3.54	3.78
	SD	1.222	1.345	0.673	0.830	0.812	0.867	1.222	1.169	1.084

〈表3〉学習スタイル別難易度ビリーフの違い

		難易度1	難易度2	難易度3	難易度4	難易度5	難易度6*
CS型	M	4.43	3.20	<b>3.97</b>	3.02	<b>2.61</b>	<b>2.21</b>

4) 〈表3〉～〈表9〉における各々の学習スタイルの人数はCS型が136名、AS型が139名、AR型が171名、CR型が37名(計483名)である。また「\*」表記は統計データのうち逆コーディングした項目である。

	SD	0.747	0.893	0.750	1.132	1.162	0.679
AS型	M	4.46	3.14	3.95	3.06	2.55	2.19
	SD	0.754	0.830	0.735	1.078	1.143	0.711
AR型	M	<b>4.54</b>	3.13	3.89	3.24	2.30	2.15
	SD	0.688	0.858	0.797	1.055	1.012	0.717
CR型	M	4.00	<b>3.27</b>	3.89	<b>3.35</b>	2.35	1.86
	SD	0.972	0.732	0.699	1.136	1.086	0.673

〈表4〉学習スタイル別特質ビリーフの違い

		特質1	特質2	特質3	特質4	特質5	特質6
CS型	M	<b>4.35</b>	3.46	<b>4.49</b>	<b>3.77</b>	<b>3.15</b>	2.24
	SD	0.673	1.247	0.667	0.899	1.029	0.991
AS型	M	<b>4.35</b>	3.46	4.40	3.76	3.01	2.18
	SD	0.699	1.175	0.655	0.967	1.087	0.942
AR型	M	<b>4.35</b>	<b>3.55</b>	4.35	3.67	2.96	2.07
	SD	0.755	1.189	0.747	0.893	1.054	0.898
CR型	M	3.97	3.54	4.30	3.49	2.78	<b>2.51</b>
	SD	1.013	1.120	0.702	0.989	1.058	1.017

〈表5〉学習スタイル別学習及びコミュニケーションストラテジービリーフの違い

		戦略1	戦略2*	戦略3	戦略4	戦略5	戦略6	戦略7*	戦略8
CS型	M	3.77	<b>1.30</b>	3.56	2.54	<b>4.60</b>	3.62	1.80	3.99
	SD	0.919	1.302	1.114	1.108	0.548	1.129	0.642	0.825
AS型	M	<b>3.81</b>	1.26	<b>3.60</b>	2.32	4.58	<b>3.65</b>	1.80	3.99
	SD	0.952	1.259	1.082	1.063	0.625	1.116	0.628	0.821
AR型	M	3.66	1.25	3.58	2.51	4.59	3.64	<b>1.82</b>	<b>4.08</b>
	SD	1.047	1.252	1.147	1.119	0.591	1.191	0.666	0.812
CR型	M	3.38	1.30	3.57	<b>2.70</b>	4.46	2.92	1.76	3.68
	SD	1.037	1.297	1.119	0.996	0.650	1.164	0.641	0.884

〈表6〉学習スタイル別自律性ビリーフの違い

		自律性1	自律性2	自律性3	自律性4	自律性5	自律性6	自律性7	自律性8	自律性9	自律性10
CS型	M	4.70	3.54	3.44	<b>4.15</b>	3.91	<b>4.04</b>	3.82	3.44	3.57	4.40
	SD	0.549	0.995	0.964	0.769	0.856	0.783	1.005	0.867	0.940	0.575
AS型	M	4.74	<b>3.62</b>	3.43	4.06	4.06	3.93	3.78	3.32	3.64	4.36
	SD	0.543	1.017	1.064	0.883	0.957	0.857	1.000	1.104	0.933	0.692
AR型	M	<b>4.81</b>	3.40	3.50	3.98	3.99	3.86	3.94	3.41	3.54	4.53
	SD	0.406	1.037	1.002	0.871	1.006	0.883	1.041	1.072	0.935	0.626
CR型	M	4.73	3.11	<b>3.70</b>	3.84	<b>4.11</b>	3.95	<b>4.32</b>	<b>3.70</b>	<b>4.11</b>	<b>4.59</b>
	SD	0.508	1.048	1.102	0.928	0.906	0.815	0.669	0.939	0.774	0.644

〈表7〉学習スタイル別コンテンツビリーフの違い

		コンテンツ1	コンテンツ2*	コンテンツ3	コンテンツ4	コンテンツ5	コンテンツ6	コンテンツ7	コンテンツ8
CS型	M	3.96	2.18	3.10	3.18	3.81	3.50	4.23	4.02

	SD	0.788	0.986	0.934	1.306	1.145	0.974	0.740	0.793
AS型	M	3.88	2.08	3.22	3.09	3.77	3.37	4.32	4.09
	SD	0.877	1.022	1.041	1.299	1.163	1.292	0.799	0.807
AR型	M	<b>4.06</b>	2.09	<b>3.26</b>	3.09	<b>3.88</b>	3.46	4.27	<b>4.14</b>
	SD	0.895	1.049	1.002	1.243	1.182	1.261	0.752	0.754
CR型	M	4.05	<b>2.19</b>	3.11	<b>3.32</b>	3.84	<b>3.59</b>	<b>4.35</b>	4.11
	SD	0.848	1.071	1.022	1.248	1.167	1.066	0.676	0.906

〈表8〉学習スタイル別動機ビリーフの違い

		動機1	動機2	動機3	動機4	動機5
CS型	M	2.10	3.18	<b>3.66</b>	4.87	4.27
	SD	0.976	1.376	0.854	0.361	0.865
AS型	M	2.13	3.13	3.61	4.78	4.23
	SD	1.034	1.290	1.067	0.467	0.995
AR型	M	1.98	<b>3.28</b>	3.61	4.85	<b>4.34</b>
	SD	0.871	1.352	0.972	0.401	0.989
CR型	M	<b>2.49</b>	3.11	3.41	<b>4.89</b>	4.05
	SD	1.216	1.329	1.257	0.315	1.026

学習スタイルによるそれぞれの7つのビリーフ領域別平均値が高い項目(色付けたセル)を合算して〈表9〉のようにまとめた。

〈表9〉学習スタイル別コンテンツビリーフの分布(個)

	適性	難易度	特質 <sup>5)</sup>	戦略 <sup>6)</sup>	動機	自律性	コンテンツ	合計(個)
CS型	1	3	4**	2**	1	2	0	13
AS型	2	0	1**	3	0	1	0	7
AR型	3	1	2**	2	2	1	4	15
CR型	3	2	1	2**	2	6	4	20

以上の結果を踏まえて、次節では、ブログを利用する日本語学習者が持っている「学習スタイル」別に「ビリーフ」の分布を考察し、各々の学習者により効果的な「学習コンテンツ」を提案してみる。

### 4.3 各学習スタイル別ビリーフと学習コンテンツ提案

本節ではGregorc&Butler(1984)が提案した各学習スタイルにふさわしいストラテジーを参考にし、既存の授業で使用するストラテジーを含めることで、ブログに紹介できるそれぞれの学習スタイルにふさわしい学習コンテンツを提案したい。また、Gregorcの学習スタイルが他のスタイル模型よりストラテジーが明確であり、実現性及び効率性が高い(伊沢, 2011:78)ため、本稿もそれに従うことにする。

5) ‘特質1’ 項目の平均値がCS型、AS型、AR型で同一であり(\*\*表記)、各々のスタイルとして表記重複処理した。

6) ‘戦略2’ 項目の平均値がCS型とCR型で同一であり(\*\*表記)、各々のスタイルとして重複処理した。

## 4.3.1 CS型学習者

研究対象者のうち28%(136人)で3番目に多くの現れたCS型学習スタイルは、どのようなビリーフを主に持っているのかを理解のため(図2)のように、またGregorc&Butler(1984)と서유리(2019b)を参照しCS型の学習者のための学習コンテンツを(図3)のように提案した。7つのビリーフ領域(適性、難易度、特質、戦略、動機、自律性、コンテンツ)の中、高い平均値を示していなかったコンテンツ関連ビリーフは図にも提示しなかった。



〈図2〉CS型学習スタイルのビリーフ分布

## 日本語学習コンテンツの活用

- ・練習問題や学習現況計画表
- ・携帯可能なサマリーやまとめの図表
- ・実際使われる活用事例
- ・実話映像コンテンツ
- ・日本人との交流会体験やチャット

〈図3〉CS型学習者のための学習コンテンツ提案

52項目のビリーフ問のうちCS型学習スタイルは計13項目で他のスタイルに比べ、相対的に高い平均値を出した。特質に関するビリーフの領域で4問、難易度に関するビリーフの領域で3問、戦略と自律性に関するビリーフ領域でそれぞれ2問、適性と動機に関するビリーフ領域でそれぞれ1問だった。

具体的な資料を通じて、順番に構成された学習を好むCS型学習スタイルの学習者は、「特質」に関するビリーフが強いことが分かった。Gregorc&Butler(1984:27)の学習ストラテジーを参照して新たに再構成した学習コンテンツを提案してみる。

例えば、CS型学習スタイルのような学習者にとっては、一般的に学習者が活用する授業教材の順序による文型及び文法に関しては、自ら熟知しているかなどを確認できる練習問題や学習現状検査表などが有効であると考えられる。また、まとめた図表や資料を携帯可能なサイズで提供することも適していると考えられる<sup>7)</sup>。そして実際に教材を活用した写真などを一緒に提示し、日本語試験(JLPT, JPT, SJPTなど)に関する問題の構成を紹介したり、各領域ごとにどのように学習したらよいかについての学習法を案内したりすることも役に立つと思う<sup>8)</sup>。加えて、動画コンテンツで活用される単語や文型、文章を一緒に整理して提示することもCS型学習者の継続的な学習を誘導できると考える<sup>9)</sup>。

最後に日本人とオンラインやオフラインを通じて会える方法を提案することができる。実際、日本人

7) 筆者はEBS教材を直接どのように学習に活用するかを単語、文法、語彙などを簡単に表でまとめて提示した。  
<http://yurilingo.com/220713357309>(2019.06.07, 検索)

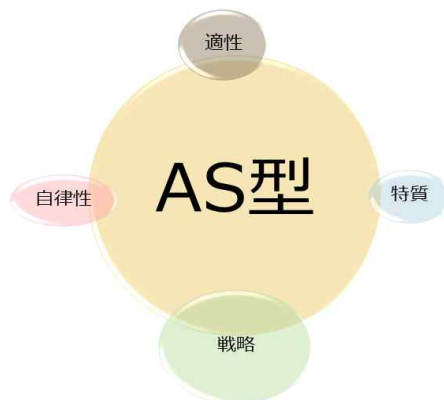
8) 筆者はEBS教材の構成を紹介しながら写真を一緒に提示し、日本語能力試験(JLPT)を領域別どのように勉強するかを紹介する学習法に関するポスティングをアップロードした。  
<http://yurilingo.com/220644107654> / <http://yurilingo.com/220836108211>(2019.06.07, 検索)

9) 筆者はある日本のドラマのうち、約1分程度の内容で使われている語彙や文法、文章などをまとめて提示した。<http://yurilingo.com/220813955437>(2019.06.07, 検索)

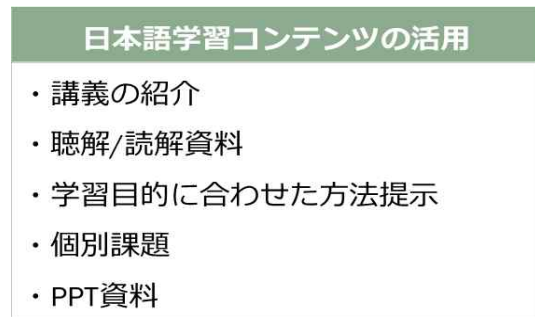
と一緒に学習しながら話すことができる一日体験式の勉強会を紹介したり<sup>10)</sup>、日本人とチャットをする方法を紹介することができる。最近は連絡先が分からなくてもSNS上の検索だけでメッセージのやり取りすることが可能で、チャットアプリケーションも活用できるだけに、このような方法でも日本語学習により興味を感じ、継続できるものと期待している。

#### 4.3.2 AS型学習者

研究対象者のうち29%(139人)で2番目に多く現れたAS型学習スタイルは、どのようなビリーフを主に持っているのかを理解のため(図4)のように、またGregorc&Butler(1984)と서유리(2019b)を参照してAS型の学習者のための学習コンテンツを(図5)のように提案した。7つのビリーフ領域(適性、難易度、特質、戦略、動機、自律性、コンテンツ)の中、高い平均値を示していなかった難易度、動機、コンテンツ関連ビリーフ領域は図にも提示しなかった。



〈図4〉AS型学習スタイルのビリーフ分布



〈図5〉AS型学習者のための学習コンテンツ提案

52項目のビリーフ問のうちAS型学習スタイルは計7項目で他のスタイルに比べ、相対的に高い平均値を出した。戦略に関するビリーフの領域で3問、適性に関するビリーフの領域で2問、特質と自律性に関するビリーフ領域でそれぞれ1問だった。

講義や論理的な資料から核心的な部分を取りまとめることや探索および分析がうまくできるAS型学習スタイルの学習者は、「戦略」に関するビリーフが相対的に強いことが分かった。Gregorc&Butler(1984:28)の学習ストラテジーを参照して新たに再構成した学習コンテンツを提案してみる。

AS型学習スタイル学習者には、まず講義に関する学習コンテンツを紹介することが役に立つだろう。既存の教室学習での授業だけでなく、無料で視聴できるメディア(例:ユーチューブ、ネイバーTV、アプリケーション、日本教材サイトなど)が多様なだけに、興味を誘発できると思う。また、聴解資料としての学習コンテンツには、「教材や語学出版社」が提供する無料の音声ファイルを活用したり、歌の歌詞を聞きながら穴を埋める活動などのコンテンツが可能であり<sup>11)</sup>、学習者のレベルによっては雑

10) 筆者は日本人先生と日本語の願書(君の臓腑を食べたい)を読みながら話し合える交流会を行ってみた。  
<http://yurilingo.com/221198695649>(2019.06.07, 検索)

11) 筆者は歌の歌詞を活用して公開されている無料の音楽映像リンクを共有し、別のインタビュー動画もあわせて提示した。<http://yurilingo.com/221022317434>(2019.06.10, 検索)

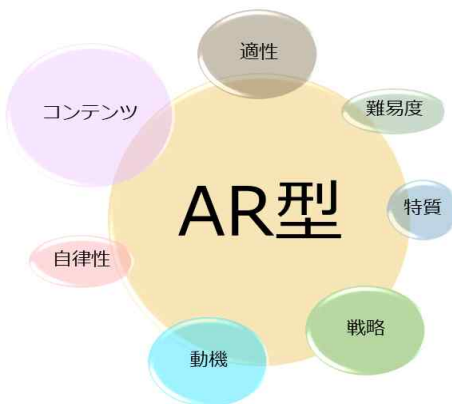
誌、広告文、インタビュー、ニュース社説などを活用することもできるだろう<sup>12)</sup>。このような聴解資料の原稿(スクリプト)は読解資料としても活用できる。

また、筆者が学習者によく受ける質問のうち、どのような教材がいいかおすすめしてほしいというケースがしばしばあるが、学習者の好みによって教材をすすめることは、教師あるいは学習コンテンツ製作者として容易ではないだろう。しかし、学習者にいくつかの学習目的によってそれぞれ異なる教材をすすめることも、AS型学習スタイルの学習者には役立つものと考えられる。文化などを通じた学習を好む学習者であれば日本語雑誌を、語彙や漢字を身につける学習を好む学習者であればこれに特化した特定の教材を勧めるとよいだろう<sup>13)</sup>。加えて、AS型学習スタイル学習者は自ら課題を遂行し整理する過程を通じて学習効果があると考える傾向があるため、個別に遂行できる課題を提示するのも一つの方法と考えられる。オンラインメディアを通じたコンテンツでこのような学習法を活用すれば、学習内容とともに最後の部分で学習者が自ら学習内容を整理できるよう、穴埋めを活用した整理ノートや学習認証レビューを書き込みに残すようにする課題を提示することも、学習者の参加を誘導することができるだろう。

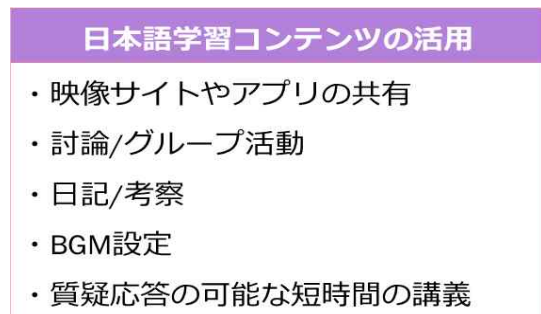
最後に、簡単にポイントだけを絞ってpptスライドを構成し、それらに提示することも効果的と考えられる。教室の環境やオンライン講義でもpptスライドを活用しているように、学習コンテンツ制作者はこの方法をブログなどのメディアでも活用できるだろう。

#### 4.3.3 AR型学習者

研究対象者のうち35%(171人)で4つの学習スタイルの中、一番多く現れたAR型学習スタイルは、どのようなビリーフを主に持っているのかを理解のため(図6)のように、またGregorc&Butler(1984)と서유리(2019b)を参照してAR型の学習者のための学習コンテンツを(図7)のように提案した。前節で見たCS型やAS型スタイルとは異なり、概ね全領域で高いビリーフの分布を示した。



〈図6〉AR型学習スタイルのビリーフ分布



〈図7〉AR型学習者のための学習コンテンツ提案

12) 筆者は新聞記事を読解資料として活用し、当該ニュースの映像を確認できるリンクを共有し、筆者が直接録音した音声ファイルも提示してみた。<http://yurilingo.com/220912403775>(2019.06.10. 検索)

13) 筆者はある漢字教材を紹介し、全体的な構成と練習問題の形式、付録などを一緒に写真とともに提示した。<http://yurilingo.com/220903272969>(2019.06.10. 検索)

52項目のビリーフ間のうちAR型学習スタイルは計15項目で他のスタイルに比べ、相対的に高い平均値を出した。コンテンツに関するビリーフの領域で4問、適性に関するビリーフの領域で3問、特質と戦略、動機に関するビリーフ領域でそれぞれ2問、難易度と自律性に関するビリーフの領域でそれぞれ1問だった。

ランダムで非順次な環境を好み、討論など人と触れ合うことが好きなAR型学習スタイルの学習者は、「コンテンツ」に関するビリーフが相対的に強いことが分かった。Gregorc&Butler(1984:29)の学習ストラテジーを参照して新たに再構成した学習コンテンツを提案してみる。

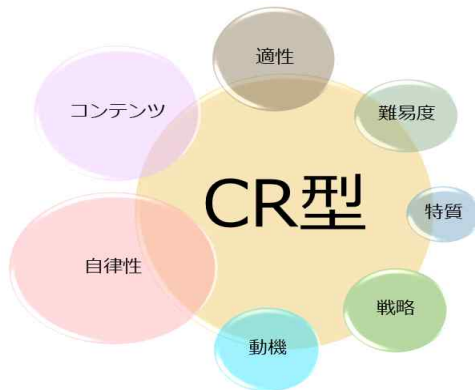
日本のドラマや動画、アニメを視聴できるサイトやアプリケーションなどを共有することも、AR型学習者には効果的と見られる。学習した内容が主に反映されている実際の会話関連動画コンテンツの活用を好むCS型学習者と違って、AR型学習者はストーリーのある動画を通じて興味を感じ、これを学習につなげることができると思われる。授業で同じく動画コンテンツを紹介しても、実際の行動に移す学習者には差があったことから、学習スタイルによって違っていたのではないかと推論できる。討論やグループ活動はネット上では実現しにくいかもしれないが、コメントを残すなどの意見交流をすることは可能である。例えば、日本文化と関連したテーマをSNSメッセージに残し、参加者の参加を誘導することもできる。中・上級学習者であれば、授業前に日本語で書かれた文化関連記事などを共有し、授業でこれと同時に語り合ったり、短くコメントを書かせたりする「フリッパーニング(反転授業)」の形式として活用できるだろう。また、学習コンテンツにBGMを弱く設定することも役に立つと思われる。実際、筆者はブログ掲示物のうち約1分程度の短い日本語一言にサイトで基本的に提供する音楽を背景として、音声が出るときには自動的に背景音楽ボリュームが縮まるシステムを利用している<sup>14)</sup>。

最後に、講義である学習コンテンツを好むAS型学習者と違って、非順次的でランダムな形の学習環境を好み、人と触れ合うことが好きなAR型学習スタイルの学習者には質疑応答が自由に可能な短い形の講義が効果的だろう。「フリッパーニング」を応用して学習者同士の討論を進めた後、足りない部分を教師が整理して一緒に質疑応答を行い、まとめる方法が彼らにとって学習効率が高いと考えられる。

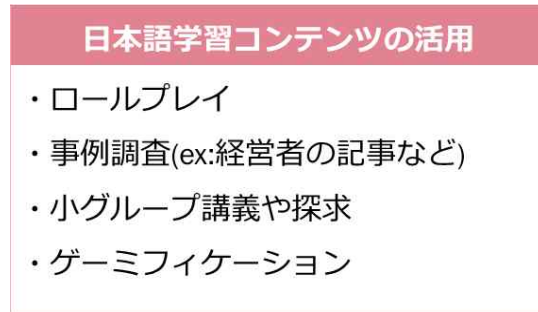
#### 4.3.4 CR型学習者

研究対象者のうち8%(37人)で4つの学習スタイルの中、一番少なかったCR型学習スタイルは、どのようなビリーフを主に持っているのかを理解のためく図8)のように、またGregorc&Butler(1984)と서유리(2019b)を参照してCR型の学習者のための学習コンテンツをく図9)のように提案した。前節で見たAR型スタイルと同様に、概ね全領域で均等に高いビリーフの分布を示しており、4つの学習スタイルの中で最も多くのビリーフの項目で高い平均値を示していた。

14) 筆者がBGMを設定し、ネイバーポストのリンクを共有した形式を活用している。事例の一つとして紹介する。<http://naver.me/5eMbxP8r>(2019.06.10. 検索)



〈図8〉CR型学習スタイルのビリーフ分布



〈図9〉CR型学習者のための学習コンテンツ提案

CR型学習スタイルは、52項目のビリーフ問のうち最も多く計20項目で他のスタイルに比べ、相対的に高い平均値を出した。自律性に関するビリーフの領域で6問、コンテンツに関するビリーフの領域で4問、適性に関するビリーフ領域で3問、難易度、戦略、動機に関するビリーフの領域でそれぞれ2問、特質に関するビリーフの領域で1問だった。

実際に具体的な経験をしながら非線形的に探索及び接するのが好きで森を見ようとするCR型学習スタイルの学習者は「自律性」に関する学習信念が相対的に強いことが分かった。Gregorc&Butler(1984:29)の学習ストラテジーを参照して新たに再構成した学習コンテンツを提案してみる。

実際にSJPT(Spoken Japanese Proficiency Test, 日本語スピーチ試験)でもこれを活用した評価項目がある<sup>15)</sup>。絵と状況に合わせて応答をする項目がこれに当該するが、学習者に状況だけを提示し、実際の場面で活用されているように、それぞれ異なる立場で会話練習を行うことで活用できるものと考えられる。特に、これは問題を解決し探求することを好むCR型学習者の特徴とも結びつく部分である。また、筆者の学習者の中に日本語そのものではなく日本の著名な経営人に興味がある学生が多数おり、その経営者の著書や発言、インタビュー動画などをまとめてこれを授業で資料として活用したことがある。即ち、教師は学習者自らが興味のある分野に関する資料を工夫し、それを共有する必要があると思われる。

前節で見たAR型学習者に質疑応答が可能な短い講義を提案したのとは違って、CR型学習者には小規模な講義とともに自ら自由に問題解決したり探求する方法が効果的であろう。例えば、日本文化を一部紹介した後、韓国と日本の違いが見られる点は何か自ら自由に探求できるようにすることが彼らにはより効果的であると思われる。

このように、彼らには他の学習スタイルよりも現実に近い具体的状況を提示し、一つ一つ探求できるコンテンツが適していると考えられる。例えば、ゲームを学習に取り入れたゲーミフィケーション(gamification)などが活用できるだろう。組み合わせ形式を借りて単語を慣れさせるため、ゲームの形のコンテンツを活用することができる。他にも、助数詞や動詞の語彙をビンゴの欄に提示し、これを日本語で言えば裏面の数字が覆われて、数字の対に合わせるために新しい語彙を話すことで学習者に新しい語彙を繰り返し、慣れさせる方法を提案する。

15) 第6部 場面設定の類型 <http://exam.ybmnet.co.kr/sjpt/index.asp>(2019.02.14. 検索)

## 5. おわりに

本研究では、オンラインメディアの一つであるブログを利用する日本語学習者を対象に、彼らの個別性を考慮するため、彼らの「ビリーフ」を「学習スタイル」を中心に分析した。そして、様々な学習方法が氾濫する中でメディアリテラシー(literacy)などが求められている今日、学習者の学習スタイル別に彼らが持っているそれぞれのビリーフを考慮し、より具体的で多様な学習コンテンツを提案してみた。

(I) ブログを利用している韓国人日本語学習者の学習スタイルの分布は次のようである。

AR型(35%) > AS型(29%) > CS型(28%) > CR型(8%)

順番に拘らず、興味がある部分だけをランダムに選ぶ学習を好むAR型が最も多く、次に、講義/論理的な資料からポイントを見つけ出し、探索や分析が得意であるAS型が多かった。それから、具体的な資料で順次的に構成されている学習を好むCS型が僅かな差でその後を継いだ。最後に、実際に具体的な経験をし、ハイパーリンクによる非線形的に接することを好むCR型が最も少なかった。

(II) ブログを利用している韓国人日本語学習者の学習スタイル別ビリーフの違いは次のようである。

AR型：様々なコンテンツ活用率が高く、直ぐに探せる「コンテンツ」に関するビリーフが強く、概ね全領域でビリーフを持っていた。

AS型：発音を重視し、会話に積極的に参加する「戦略」に関するビリーフが強く、難易度、動機、コンテンツに関するビリーフは現れなかった。

CS型：単語や語彙を習い、文法を学ぶのが効果的である「特質」に関するビリーフが強く、コンテンツに関するビリーフは現れなかった。

CR型：自ら挑戦して、問題解決に至る性向である「自律性」に関するビリーフが強く、最も多くのビリーフを均等に持っていた。

(III) ブログを利用している韓国人日本語学習者の学習スタイル別学習コンテンツの提案は次のようである。

AR型：動画サイトやアプリの共有、討論やグループ活動から意見交流、日記及びセルフモニター、BGM設定、質疑応答の可能な短時間の講義。

AS型：講義の紹介、聴解/読解資料、学習目的に合わせた教材の共有、学習レビューなど個別課題、pptスライドでのまとめ資料。

CS型：練習問題や学習現況計画表(2週プラン、1ヶ月プラン)、携帯可能なサマリーやまとめの図表、実際使われる活用事例、実際の会話から経験できる動画コンテンツ、日本人との交流会体験やチャットなど。

CR型：ロールプレイ、経営者の記事など事例調査、小グループ講義や探求、組み合わせなどのゲーミフィケーション。

今回の研究では、ブログを利用する学習者を対象に、現在彼らが持っているビリーフを調査することにとどまった。本研究を終え、大きく以下の二点が今後の課題として残った。

第一に、今回の調査では、主にブログを利用する学習者を対象としたため、研究対象者の数が多いものの、学習リソースとして利用するのはブログ一つではないことから、この結果が一般化できるかどうか

かの判断は今の段階では断言できない。ユーチューブのような他のリソースを利用している学習者との比較など、今後、調査の範囲を広げて行きたい。

第二に、今回の研究では、学習スタイルごとにそれぞれの学習コンテンツを提案しているが、実際、これらを学習者に適用するまでに至らなかった。各々の学習コンテンツを適用し、学習者の意見を受けすることで、日本語学習に影響を与える要因はほかにも見られることが予想されるため、今後は質的方法を通してより具体的に韓国人の日本語学習者を分析し、考察を深めていきたい。

## 【参考文献】

- 김세련·秋葉多佳子(2014) 「학습스타일에 관한 고찰 -한국인 일본어 학습자에 대한 양케이트 조사를 통하여-」 『일어일문학연구』 Vol.88(1) 한국일어일문학회 pp.163-186
- 권성연(2009) 「대학생의 Gregorc 학습양식과 학습전략 사용 및 교수방법 선호의 관계 분석」 『학습자중심교과교육연구』 9(2), 학습자중심교과교육학회 pp.35-57
- 서유리(2019a) 「한국인 학습자의 일본어 학습에 관한 학습신념-블로그를 이용하는 학습자를 중심으로-」 『일본학보』 121 한국일본학회 pp.1-22
- \_\_\_\_\_ (2019b) 「한국인 일본어 학습자의 학습신념 연구-블로그를 이용하는 학습자를 중심으로-」 『고려대학교 일반대학원 중일어문학과』 석사학위논문
- 신은정(2017) 「학습스타일 연구에 관한 일고찰」 『일어일문학연구』 Vol.101(1) 한국일어일문학회 pp.233-247
- 이재무(2011) 「컴퓨터과학 교육을 위한 적응형 교수 시스템 개발 및 효과분석」 『경북대학교 대학원 교육학과』 박사학위논문
- 최미나·노혜란(2016) 「대학이러닝에서 학습자의 학습스타일에 따른 학습자 특성과 이러닝 학업성취도 및 만족도, 모바일러닝 수강동기 분석」 『학습자중심교과교육연구』 Vol.16 no.1 학습자중심교과교육학회 pp.555-570
- 李善姬(2008) 「韓国人学習者の日本語学習ビリーフ：日本語教師を目指す大学生を対象に」 『日本語文学』 Vol.36 한국일본어문학회 pp.129-144
- 李琬兒(2018) 「發音指導がもたらす韓国人日本語学習者のビリーフの変化と発音との関係」 『釜山大学大学院日語日文学科』 博士学位論文
- 稲葉みどり(2014) 「外国語学習のビリーフの考察—愛知教育大学の1年生の場合」 『愛知教育大学教育創造開発機構紀要』 Vol.4 国立大学法人愛知教育大学 pp.149-156
- 吳禮受(2007) 「日本語学習における韓国人学習者と教師のビリーフの比較」 『日本語教育』 Vol.40 한국일본어교육학회 pp.27-49
- 齋藤良子(2009) 「日本人韓国人学習者の韓国語学習に対する好意が学習ビリーフと学習ストラテジーに与える影響について」 『동북아시아문화연구』 18号 동북아시아문화학회 pp.405-422
- 齋藤ひろみ(1996) 「日本語学習者と教師のビリーフ—自律的学習に関わるビリーフスの調査を通して」 『言語文化と日本語教育』 お茶の水女子大学日本語文化学会研究会 pp.58-69
- 橋本洋二(1993) 「言語学習についてのBELIEFS把握のための試み—BALLIを用いて」 『筑波大学留学生センター日本語教育論集6』 筑波大学留学生センター pp.72-82
- 若井誠二·岩沢和宏(2004) 「ハンガリー人日本語学習者のビリーフス」 『日本語国際センター紀要』 第14号 国際交流基金日本語国際センター pp.123-140

- 渡辺晴世(1990) 「学習者ピリーフと学習ストラテジー学習者から言語学習に関する情報獲得の試み」『日本語教育論集』Vol.7 国立国語研究所日本語教育センター pp.94-119
- Butler, K. A.(1984) Learning and Teaching Style In Theory and Practice ; The Learner's Dimension
- Gregorc, A. F.(1979) Learning/teaching styles: Potent forces behind them. Educational Leadership 5, pp.234-237
- \_\_\_\_\_ (1982a) *An adult's guide to style. Columbia, CTL: Gregorc Associates, Inc.*
- \_\_\_\_\_ (1982b) *Gregorc style delineator: Development, technical, and administration manual.* Col-umbia, Conn. : Gregorc Associates.
- Gregorc, A. F. & Butler, K. A.(1984) Learning is a matter of style. Vocational Education, 59-3, pp.27-29
- Gregorc, A. F.(1987) Surveying student's Beliefs about language learning, Learner Strategies in Language Learning, Ed. Wenden, A. and Rubin, J., Prentice-Hall International, pp.119-129
- Horwitz, Elaine K.(1987) Surveying students Beliefs about language learning, Learner Strategies in Language Learning; Englewood Cliffs, N.Y. : Prentice/Hall International, pp.119-129
- Watson, S.A.(2001) Learning styles of interior design students as assessed by the gregorc style d-elevator. In Journal of Interior Design, 27(1), pp.12-19

### 〈付録1〉ブログを利用する学習者用ピルーフアンケート日本語版

まったく当てはまらない  当てはまらない  どちらでもない  当てはまる  とても当てはまる

1.	大人より子供の方が日本語を習得するのは易しい。
2.	人それぞれ日本語習得の特別な能力がある。
3.	韓国人は日本語学習の才能がある。
4.	すでに一つの外国語をマスターした人は別の外国語を習得しやすい。
5.	数学や自然科学が得意な人は外国語学習が不得意である。
6.	私には日本語学習の特別な能力がある。
7.	女性は男性より日本語を習得するのは易しい。
8.	二つ以上の外国語が話せる人は頭がいい。
9.	誰でも日本語が上手になると思う。
10.	習いやすい言語とそうじゃない言語がある。
11.	日本語学習は 1. とても難しい 2. 難しい 3. 普通である 4. 易しい 5. とても易しい
12.	私は日本語がマスターできる。
13.	日本語を理解することより話すことの方が簡単である。
14.	日本語は聞いたり話したりするより読んだり書いたりするのがより簡単である。
15.	1日1時間ずつ日本語を勉強する場合、上手くなるにはどのくらいかかると思うか。 1. 1年以内 2. 1~2年 3. 3~5年 4. 5~10年 5. 1日1時間では無理
16.	日本語を勉強する際には、その国の文化について知ることが必要である。
17.	日本語は韓国より日本で勉強するのが一番いい。
18.	日本語学習の一番重要な部分は単語や語彙である。
19.	日本語学習の一番重要な部分は文法である。
20.	日本語を習うのは他の科目を習うことと違う。
21.	日本語を習うのは大体日本語を訳することだ。
22.	正確な発音で日本語を話すことは大事である。
23.	正しく言えるまで(単語、文法、発音が正確になるまで)日本語を言っはいけない。
24.	日本語が話せる人がいたら、日本語の練習のため、その人に声をかける。
25.	わからない語彙の意味は、推測しても構わない。
26.	大量の反復練習は大事である。
27.	日本語で話すところでは、周りを意識するようになる。
28.	初級の段階で日本語の誤用が許されれば、後で日本語を正確に話すことが難しくなる。
29.	MP3, CD, DVD, iPad などによる練習は重要である。
30.	韓国人は日本語が上手でなくてはならないと思う。
31.	私は日本人をより理解したいので日本語を勉強する。
32.	日本語を学習すれば、いい仕事に恵まれるに達しない。
33.	日本語が上手になりたい。
34.	日本人の友だちがほしい。
35.	はっきりとした目的があれば、日本語の上達が早くなると思う。
36.	私は先生の言う通り勉強すれば上達が早くなると思っている。
37.	先生に助言を求めなくても(授業を受けなくても)自分で日本語を上達させることができると思う。
38.	計画を立てて勉強すれば日本語の上達が早くなる。
39.	学習意欲が強ければ学習環境が悪くても日本語が上手になると思う。
40.	自分で間違いをチェックするとき一番学習できる。
41.	自分自身で新しいことにチャレンジすることが好きだ。
42.	私は日本語をどう学習すればいいかよく知っている。
43.	自分自身で問題の解決方法を見つけるのが好きだ。
44.	私は努力すれば日本語が上手になると信じている。
45.	教科書(教材、本)以外にネットからのコンテンツがより日本語学習に役に立つと思う。
46.	学校/学院などで日本語を習うのは簡単じゃないと思う。
47.	ネット(PCまたはモバイル)における日本語の学習コンテンツの長さは短ければ短いほどいい。
48.	日本語の勉強方法として授業/教材(本)じゃない以外の例のようなコンテンツを( )個以上使うのが役に立つと思う。(例:ブログ、ユーチューブ、アプリ、アニメやドラマ、ニュース、ゲーム、オンライン講義、チャット、教育番組、電話日本語など) 1. 役に立たない 2. 1~2回 3. 3~4回 4. 5~6回 5. 多ければ多いほど
49.	上記の例のようなコンテンツを1週間( )回くらい利用するのが役に立つと思うか。 1. 役に立たない 2. 1~2回 3. 3~4回 4. 5~6回 5. 毎日
50.	コンテンツから手に入れた資料をSNSなどに載せたりしながら活用するのが日本語学習に効率的だ。
51.	わからないことがあればすぐネットで検索するのがいい。
52.	自分はネット(PCまたはモバイル)を利用し自分が希望する学習コンテンツを簡単に探す方だ。

〈 요 지 〉

학습 스타일에 의한 학습신념(빌리프)연구

- 블로그를 이용하는 한국인 일본어 학습자를 중심으로 -

한국 내 최대 포털 사이트인 네이버 블로그를 이용하는 학습자를 대상으로 이들이 가지는 학습신념(빌리프)을 살펴보고, 학습에 도움이 될만한 학습방법을 살펴보았다. 다양한 학습 도구 중 블로그를 활용하는 학습자 간에도 개별적인 학습 스타일에 따라 이들이 가지는 학습신념은 다르다고 판단하여, 본 고에서는 블로그를 이용하는 학습자는 과연 어떠한 학습 스타일을 보이는지, 또 어떠한 학습신념을 지니고 있는지를 밝히고자 한다. 더불어 어떠한 학습 접근법이 학습자들의 지속적인 학습으로 이어질 수 있을지를 고려하여 학습콘텐츠까지 제안하고자 한다.

블로그를 이용하는 학습자를 'Gregorc의 학습스타일'에 따라 4가지로 나누어 분석한 결과, CS(구체·순차)형이 28%, AS(추상·순차)형이 29%, AR(추상·임의)형이 35%, CR(구체·임의)형이 8%이었다. 학습 스타일에 따라 주요 변수인 학습신념 간의 평균값이 유의미한 차이를 보이는지 확인하기 위해 통계 분석 중 일원배치 분산분석(ANOVA)을 활용하였다. CS형 학습자는 '특질'과 관련한 학습신념을, AS형 학습자는 '전략'과 관련한 학습신념을, AR형 학습자는 '콘텐츠'와 관련한 학습신념을, CR형 학습자는 '자율성'과 관련한 학습신념을 강하게 가지고 있음을 알 수 있었다.

이에 따라 각각의 학습 스타일 별로 학습신념을 고려하여 다음과 같은 학습 접근법을 제안할 수 있을 것이다. CS형에는 휴대용 정리 노트나 실제 상황에서 활용 가능한 콘텐츠를 제안하고, 일본인과의 교류회를 소개하는 것이 효과적일 것이다. AS형에는 청해·독해자료를 통해 스스로 분석할 수 있도록 과제를 제시하는 것이 효과적일 것이다. AR형에는 학습의 형태보다 사람과 접할 수 있는 그룹 활동이나, 질의응답이 가능한 짧은 강의 등을 제안할 수 있을 것이다. 마지막으로 CR형에는 롤 플레이나 게임과 같은 접근을 제시하는 것이 이들의 흥미를 이끌 수 있을 것이다.

본 연구에서는 학습자의 학습신념을 고려하여 새로운 학습 접근법이 필요하다는 것을 확인하였다. 이와 같은 학습 스타일에 따라 다른 학습신념을 가지는 분석을 통해 확인한 학습 접근법에 도움이 될 수 있는 제안이 학습자의 내면적인 특성에 어울리는 수업 설계의 구축에 한 걸음 내딛음에 도움이 되었으면 한다.

논문분야 : 일본어교육

키워드 : 학습신념, 학습 스타일, 학습 접근법, 한국인 일본어 학습자, 블로그 학습자

■ 서유리(徐유리)

고려대학교 박사과정

seoyuri0418@korea.ac.kr

■投稿日	:	2019년	12월	31일
■審査開始	:	2020년	2월	5일
■審査完了	:	2020년	2월	19일
■掲載確定	:	2020년	2월	28일